

## 臨死体験における非局在性（時間と空間を超えること）について

齋藤 忠資

臨死体験では、脳と肉体を超えた自己意識のコアは、物質の世界を超え、時間と空間の隔たり（バリア）から自由になることについて我々はすでに考察した。1)

ここでは、この点について再考し補いたい。

### ① 臨死体験には時間の分離（隔たり）がない

永遠とは無限に時間が続くこと（永続）ではなく、時間のバリア（過去・現在・未来）がなくなり、過去も未来の全てが現在になること（永遠の今）である。非局在意識は、時間を超えているので肉体には分からないが、いつでも存在していると同時にいずれの時にも存在していない。

「時間とは永遠から我々を分離するものである。」（マイスター・エックハルト）

「現在は常に現在であり、過去にならなければ、現在は時間ではなく、永遠である。」（アウグスチヌス、告白 11 章 14 節）

### ② 脳と肉体を超える意識になると、そこには時間というものがない。代表的な例を挙げよう。

「時間のすべての点は同時にあるが、より速くもより遅くもさかのぼることも脇道にそれることもできた。肉体を超えると、我々はアウエアネスでもって、すべての時間と空間を横断する。肉体の五感はない。我々の純粹の意識である。私の将来の多くのアスペクトが分かった。どのようにプランされているかが、私が戻った場合と戻らなかった場合のプランが。-時間と空間と固体は常に存在しているのではない。私がアクセスする必要がある時間のどの点にも、私は重点を当てることができた。過去の生にもアクセスできた。すべての時は同時に存在するので、パラレルあるいは同時的存在にアクセスすることを意味する。」

2)

「光の世界には、時間はない。時間は人間の産物である。」 3)

「時間はゆっくりとなり、止まってしまった。」 4)

「私は時間のないところから戻ってきた。」 5)

「光の世界には時間はなかった。」 6)

「永遠とは、光の世界における靈的自己に時間がないことである。」 7)

「光の世界にはもう時間は存在しない。すでに時はなく、永遠である。」 8)

「その時は時間を超越した感じがした。」 9)

「靈の世界では、すべてが時間の枠なしに猛スピードで生じる。トンネル内も猛スピードで通過する。」 10)

「トンネルを通過する時も、時間の感覚はない。」 11)

「高次元界では、時間の感覚はない。時間は止まる。」 12)

「光の存在は “すぐに光の世界に戻って来れると言った。現在には時間はなく、あるのは永遠だけなのだから。” 13)

- ⑩ 時間がないということは、過去と現在と未来の分離がなく、過去も未来もすべて現在の出来事になり (永遠の現在)、共存しているということである。従って記憶することも思いつくこともない。典型的な例を引用しよう。

「現在性の深い感覚があった。そこでは過去・現在・未来へと分割される時間はなかった。起こりうることは、過去に起こったことの現在と密接にリンクされていた。起こりうることは起こったことの不可欠な部分であった。」 14)

時間のない状態から過去・現在・未来へ分割・分化されるということは、不可分の全体 (コヒーレンス・非局在・共存) 状態からデコヒーレンス・局在状態にシフトするということである。

「時間は存在しない。過去と未来は存在しない。今がすべてである。それは永遠の今である。」 15)

「年代史の線形の時間というものは、光の世界にはなかった。すべては常に今において経験された。過去も未来も現在もすべてが。」 16)

「存在の 1 つの根底を経験した。その時は永遠の今であり、記憶は機能しない。思い出すことは何もない。」 17)

この例は、すべてが現在であり過去がないので、記憶や思い出すということはないといっている。

「私は過去と現在と未来を同時に見た。」 18)

「霊の次元には時間はなかった。過去と現在と未来が一体となり、永遠が現在となり、今に終わることはない。」 19)

「霊の世界には過去と未来はなく、常に現在のみがある。過去にあったすべてのことは常に今である。」 20)

「私は時間がないと思った。どの時間も今であり、どんな時でも今であると気づいた。」 21)

「光の世界ではすべては現在である。過去も未来も。」 22)

「湖で溺れた時、まるで今にいるかのように過去と未来という考えはなかった。」 23)

「死んだ祖父母には、過去も現在も未来のこともすべて分かった。」 24)

「時間は永遠に現在である。」 25)

「絶えず変化し、脈動しているが常に現在であるような永遠の今。」 26)

この例は常に現在であるが、その現在は絶えず変化し振動していることを示している。臨死体験ではいつも現在しかないが、その現在は変化し振動している。人生再検査でも同じことが起こっている。

臨死体験では、過去と未来が現在と共存している。つまり、現在が過去と未来に分離し

ていないで量子ように共存状態にあるという例がある。

「高次元では、すべての時間は出来事の単一の統合された一連の出来事になっている。過去・現在・未来は高次元界では一緒に共存している。」 27)

「すべては同時に起こった。時間はなかった。すべての時点は共存していた。」 28)

過去も未来もすべて現在にあるので、死者にも会えるし未来のことも今、分かる。

㊦すべての出来事が現在生じるということは、瞬間に生じるということである。瞬間は時間の枠組み（過去・現在・未来）の外にある。代表的な例を挙げよう。

「臨死体験における覚醒は、時間に属してはいない。光源は瞬間にある。目覚めは常に今、存在している。」 29)

「光の中で、過去と現在と未来の全てが、どの瞬間にも体験できた。」 30)

「時間の瞬間のみがあり、時間の永久の広がりのみがあるかのようであった。」 31)

「時間の感覚はなく、すべてが瞬間に生じた。」 32)

㊦すべての事象が現在という瞬間に起こるということは、すべての事象が過去も未来も、同時に起こるということである。典型的な例を挙げよう。

「すべては同時に生じる。過去の出来事も現在の出来事も未来の出来事も、すべて同時に起こるかのよう、同時に体験するかのよう。この物質界では、過去・現在・未来は線形的だが、臨死体験では過去・現在・未来の区別はない。」 33)

「すべては一度に生じた。時間がない。光は大いなる一体性であることが分かった。全知と人間のすべての経験は光の中にあつた。」 34)

「時間はなく、すべてのことが同時に生じた。」 35)

「光の世界では、すべては同時であり、永遠の今である。」 36)

「すべては同時に起こった。過去も未来もなかった。」 37)

「すべては同時に生じた。時間は存在しなかった。すべては正に今、知覚された。」 38)

「時間は存在せず、すべてのことが同時に起こるように思われた。」 39)

「すべてが一度に起こるように見えた。」 40)

「情報はすべて一度に伝わった。」 41)

「多くの知識の伝達を同時に理解できた。」 42)

「過去と現在と未来の歴史を同時に見ることができた。」 43)

質問と同時に答えられるというケースも見られる。

「質問すると同時に答えが分かった。」 44)

「質問すると同時に答えられた。」 45)

過去と未来の出来事が、現在同時に起こるという点は、C.コングのシンクロニシティとの共通性を示唆する。

「そこには時間の制約はない。私は過去と現在と未来を同時に見ることができた。」 46)

「すべてのことが同時に起こった。時間はなかった。」 47)

「すべてのことが、時間なしに同時に生じた。」 48)

「私はすべてのことを一度に知覚することができた。」 49)

「時間は同時的で、すべてのことは同じ時に起こった。過去も未来もなかった。」 50)

「多くのことが同時という特徴は、光の存在の思考についても妥当する。多くのことを同時に考えることができる。多くの思考と同時に完全に理解して、考えることができる。」 51)

臨死体験では、質問すると同時に答えが分かるという例が多く見られる。

「光の世界では同時に何百の質問ができ、同時に何百の答えが分かった。」 52)

J.ロングによると、臨死体験者の 33.9%が、すべては同時に起こったと答えている。 53)

⑨ 過去も未来もないということは、始め（過去）も終わり（未来）もないということである。従って因果関係も歴史も進化もない。

「光の世界の命は永遠であり、始めも終わりもない。」 54)

始めも終わりもないということは、誕生と死がないということである。誕生は時間の始まりであり、死は時間の終わりであり、誕生と死は時間内の事象であり、物質界（肉体）のことである。脳と肉体を超えた非局在意識には時間になく、従って誕生→成長→老化→死という時間のプロセスもない。光の世界には死というものは存在しない。「光のエネルギーは、不死不滅である。」 55)

「光は言った。“死は存在しない。人間のコアは不死の存在である。”」 56)

「光の世界には死がなかった。」 57)

時間は現在のままであり、過去に過ぎることはないので、老化というものもない。

「光の世界では、どれも純粋です。地上と違ってこの成分は混じり合ったり分解したりしないのです。老化を防ぐ振動マスターがあらゆる所に行き渡り、すべてがあるべき所に納まっているのです。だから物が汚れたり、古びたりせず、何もかもすべてが明るく新鮮に見えるのです。」 58)

従って光の世界では死者達は皆、年をとることがなく、ピーク時のように若々しく生命に溢れている。

「天界には時間がない。時間の流れによる年齢には意味がない。」 59)

「光の世界では人々は年齢がない。」 60)

過去というものは存在せず、現在のみしか存在しないので、光の世界には死者も皆、現在生きている。臨死体験者が死者に出会うのは決して偶然ではない。一例だけ挙げると、

「3年前にガンで死んだ1番の親友のソニーのエッセンスに会った。私が気がつかなくても死者達はいつも私の周りにいる。愛をもって。私のエッセンスとソニーのエッセンスは1つになった。私はソニーになった。死者は愛する者のために、いつでもどこでも存在していることが分かった。」 61)

この例では、主体・客体の分離がなくなって、二人のエッセンスは1つになったと言われている。さらに未来が現在になるということは、現在という時点で未来を体験できる

ということである。臨死体験者は、未来を体験する例は多く見られる。

「時間に制約されていないので、将来を見ることができた。」 62)

「スピリットには過去・現在・未来という時間の制約はなく、将来のことも分かる。」 63)

⑩臨死体験では、時間はないが、状態の変化と分節（区別）は見られる。

「ある状態から別の状態へと変化するのには、時間は全くかからない。」 (64)

量子でも量子ジャンプやコヒーレンス状態からデコヒーレンス状態に変化したり（波動関数の収縮）、共存状態から時空内に分離する時には、時間はかからない。臨死体験ではシーンは突然瞬時に変わる。

「透明さは変化し、音楽には時間がない。」 65)

この例では、光の世界では物質がないので楽器もなく、振動が伝わる空気もなく、口と耳もないが、音楽は時間なしに変化することを示している。

「超意識状態でトンネルを通過すると、トンネルの端で光と会うというのは順序のみで、時間の経過はない。」 66)

「臨死体験には、時間と空間の制約（バリア）はない。」 67)

肉体を超えた意識にシフトした後、暗いトンネルを通過し、トンネルの先の光の世界に入り、美しい風景を見、死者と出会い、バリアに接すると戻るように言われ、再び肉体に戻るという出来事のシークエンスが見られるが、各々の出来事には名簿リストのような区別・分節はあるが、年代史のように時間は流れない。これは人生再検査でも同じである。人生の各シーンは区別・分節できるが、人生全体が時間の経過なしに一瞬にして現在に起こる。各々の出来事は区別・分節されて、全体として時間の経過なしに一瞬にして現在に生じる。それは4次元時空の出来事全体が、5次元界からは各々の出来事が区別・分節された仕方で時間の経過なしに一瞬にして一望できるのと同じである。脳と肉体を超えた意識の世界では、すべての個（部分）が区別・分節はできるが、バラバラに分離できない仕方で、全体として1つになっている（不可分の全体性）。ことから、臨死体験の出来事全体と人生再検査も、各々の出来事は区別・分節できるが全体として1つになっている。すべての出来事は、現在として一瞬にして一望できる。

これを1本のビデオテープに例えてみると、テープにはある物語のすべてのシーンが区別・分節されて収録されている。我々はプレーヤーでこのテープの現在のシーンのみしか見ることができないように制約されているので、各々のシーンが流れて過去と現在と未来という時間の経過が生じる。しかし、肉体を超えた意識には時間による制約はなく、テープ内に収録されているすべてのシーンを区別・分節した仕方で一瞬にして時間の経過なしに現在を一望できる（不可分の全体性）。

⑪身体（生命体）が、時間の過去・現在・未来という経過・分離を生む。脳・肉体を超えた意識の世界には、時間は存在しない。

代表的な例を挙げよう。

「時間は地上のもの。人間が作ったもの。天には時間は存在しない。」 68)

「時間は人が作った概念であり、宇宙そのものには時間は存在しない。」 69)

「時間は私達の肉体感覚の生み出す幻覚である。」 70)

「時間は明らかに地上の事柄のように見えた。」 71)

「天使は、時間は人間が作ったもので、天には存在しないと私に教えてくれた。」 72)

時間は、人間という生命体が生み出した概念であり、肉体と脳を超えた意識の世界にも、物質界そのものにも存在しない。

「時間は人間が生み出したもの。肉体の故に時間の本質を見抜くことはできない。肉体を超えるると時間が存在しないことが分かる。」 73)

②臨死体験には、空間による分離（隔たり）はない。

④脳と肉体を超える意識になると、そこには空間の分離（隔たり）というものはない。

物質は超えた真の本質界には、空間により隔たり・分離・バリア・距離というものはない。空間の隔たり・分離・バリア（距離）というものは、我々を真の本質界から分離・隔たりを作るものである。無限というのは空間が限りなく拡大することではなく、空間の隔たり・分離・バリアがなくなることである。空間の隔たり・分離・バリア・距離がなくなるということは、至る所に偏遍在し、非局在になるということである。臨死体験の光の世界では、物質でない純粹意識の光が遍在し、音楽や色もすべてに遍在している。非局在意識は空間を超えているので、どこにでも至る所に存在していると同時に、どこにも存在していない。肉体からは分からない。

代表的な例を挙げよう。

光の遍在性と非局在性については、我々はすでに考察した。 74)

「光の世界には、個体としても外部的にも境界はない。」 75)

「至る所に音楽が流れ、地上のものとは比較できないほどとても美しかった。」 76)

「地上では聞いたことのないほど、素晴らしい音楽が至る所からやって来た。」 77)

「園全体が歌っていた。草・草木が音とリズムとメロディーで満たされていた。私は音楽そのものを聞かなかった。聞くことを超えたレベルで音楽を感じた。すべてのものがここでは歌っているようだ、私は思った。」 78)

ここでは、音楽を耳で聞いたのではなく、肉体を超えた意識全体で感じたと言われている点に注意しなければならない。

「明るく輝く緑の草があり、様々な色がとても明るく輝き、地上のものよりも鮮やかで至る所にあった。」 79)

「光は至る所にあり、虹色が至る所にあった。」 80)

光は至る所に遍在しているということは、光には方位というものではなく、360度至る所から放射されているということである。 81)

「上から救急治療室を見ていた時、歌声が全方位から聞こえてきた。白衣の一群の人々が歌っていた。しかし、歌声は他の方向からも来た。」 82)

瞑想の例もある。

「アトマンは常に限定なきもので、彼だけが上にあり、下にあり、前に、後ろに、左に、右にある。彼はすべてにあり、すべてであり、彼の他に何も無い。その限定なき彼は瞑想、あるいは体験をしている“私”以外の誰でもないのだ。だから体験者は深い真実を見ている。私は上にあり、下にある。私は前と後ろに、右と左に、私はすべてであり、すべてにある。私以外に誰もいない。」 83)

「光の空間には、ここもあそこもない。光の定まった源というものはない。空間は光であった。すべては光であった。」 84)

「スピリットの世界は、物質界から離れた所にあるのではない。」 85)

「あの世から空間的な移行も唯、地上の考えに従って比喩的に捉えているに過ぎない。」 86)

「天国とは特定の場所ではなく、存在の在り方なのだ。私達の本当の家も、場所ではなく、1つのあり方に過ぎない。今この瞬間、私は我が家にいると感じている。他の場所に行きたいという気持ちはなく、ここにしようがあちらに行こうが全く違いはない。すべては私達のより大きく拡大した無限である素晴らしい自分の異なる側面に過ぎない。私達の本当の家は、一人一人の内側にあり、それに私達が行く所、どこにでもついてくる。」 87)

自己のコアのあり方は、振動数によって決まる。

- ⑧ 光の世界には固定した位置（場所）とか形とかサイズというものはない。従って物体や生命体や身体というものは存在しない。光の存在と肉体を超えた意識のコアは、固定した体を備えていない。光の存在には、固定した形（体）はなく、遍在しているので（非局所）、空間の移動・運動・スピードというものはない。固定した花園・野原・丘・山・川・シティ・図書館等も存在しない。それらは臨死体験者のイメージとフィードバックして思念形態としてホログラムのように作り出される。手足等も臨死体験者の必要に応じて思念形態として作られる。固定した場所（位置）はないので、ここもあそこもない。すべては臨死体験者の思いによって決まるのである。

「物質界の大きさは、スピリットの世界とは関係がない。」 88)

- ⑨ 光の存在には、本来固定した位置（場所）や形や姿というものはない。

代表的な例を挙げよう。

「光の存在は手足や顔を備えていない。光以外には何も無い。対象物はなく、人間やその他の存在のなく、建物もない。無条件の慈愛を持つ光以外には何も無い。」 89)

「私は1つの光を見た。太陽の光のような。しかし、形はなかった。」 90)

「白い光には形も性もない。」 91)

「光の存在は光のエネルギーであり、区別されるがリアルな形がない。」 92)

「あそこには私がここと思った瞬間ここになった。こことかあそこというのは、私という存在がその瞬間に定める一時的な尺度に過ぎない。」 93)

この例は、非局在意識の世界では、空間上の位置からは本人の思いが決めるもので（思念形態）、初めから決まっているものではないことを示している。

「物理上の意味での位置・場所は、私は意図的に表出したもので、大きさは見られなかった。」 94)

「この完全な光の存在には、形も性もなかった。」 95)

「光の存在はすべてに広がっていて、形はなかった。」 96)

「私は境界もなく、形もなかった。」 97)

「私は形を備えていなかった。存在の完全な状態で、私は唯存在のみであった。」 98)

② 光の存在は固定した体や感覚器官を持っていない。

典型的な例を引用しよう。

「光の世界では私は姿形はなく、眼を備えていなかった。だから眼を光によって痛めることもなかった。」 99)

臨死体験例には、太陽よりずっと明るく輝く光に照らされたが少しも眩しくなく、目を痛めることもなかったという例が多く見られるが、肉眼のような目はないことから理解できる。

「私は姿形はなかったが、姿形は変化した。」 100)

この例は、固定した姿形はないが思念形態でホログラムのように作り出された姿形は、臨死体験者の思いによって絶えず変化したといっている。

③ 肉体を超えた非局在意識は、固定した大きさもないので、宇宙全体を包む最大にも、ミクロの素粒子を体験する最小にも、思いどおりに自由自在になれる。臨死体験例には、意識が拡大して宇宙空間の星の間を猛スピードで飛行し、やがて宇宙全体を包んで宇宙意識になったり、通常の肉眼では見えない素粒子を見たという例が多く見られる。非局在意識は宇宙を超越していると同時に内在できる。代表的な例を挙げよう。

「霊の大きさははかることができない。」 (101)

「外から見ると家は通常のサイズだが、内側から見ると家は巨大である。家を上から見ると、隣の家と庭と通りが見えるが、正面から見ると隣の家は見えない。町は巨大に見えると同時に、一つのブロックの区域にも見える。」 (102) この例は物質界では矛盾することが、量子のように共存していることを示している。非局在意識の世界では、固定した大きさとか形というものがないので、非局在意識の思いによって自由自在に変化する。（思念形態）

「シティの建物のつくりは、大きな柔軟性を備えていて、椅子は座る人に合わせて形を変えるように見えた。」 (103) この例では椅子の大きさが座る人の思いに合わせて自由自在



に変化すると言われている。(思念形態)

ヨガ修行者にも似た例がある。「心臓の空洞に住んでいるアートマンは、最も小さいものよりも小さく、最も大きいものよりも大きく、どこにでもある唯一のものであり、全てに浸透している。あらゆる欲望と不安から自由なものは、神の恩恵によってこの形を一人で知覚できる。」(104)

「それはアメーバや光子のように、肉眼や顕微鏡で知覚できる最も小さなものより小さいものである。何故ならそれは認識される最小のものの中にあるからだ。またそれは地球や太陽のように、人間のマインドで把握できる最も大きなものより大きいものでもある。何故ならそれはあらゆるものに遍在し、大宇宙や小宇宙のすべてを支えているからだ。」(105)

◎ 空間の隔たり(距離)がないということは、すべてのものは分離できない仕方で一体になっていて、相互に結合し合っていて、主体と客体に分離できないということである。物体も知覚の妨害にはならない。このことは臨死体験における透視と透聴現象になる。物体を素通りすると言っても、空間の隔たりがないので空間の移動というものもなく、実際には透視ということである。代表的な例を挙げよう。

「肉体を超えた意識にシフトした時、私は2階から救急治療室の様子を見た。」(106)

「心臓が停止した時、私は肉体から離れて上昇し、天井と屋根を素通りして、私は自分の肉体を見た。医師たちが蘇生させようとしていた。」(107)

「私は完全な意識を持った。私は壁を越えて移動しすべてを見た。」(108)

「肉体を超える意識にシフトして、私は看護師のすべての会話を聞き、天井や壁なしに、建物全体を見た。それまで見た事はないが、その建物の中にあるものが分かった。」(109)

「距離も壁も見ることと聞くことを妨害しない。」(110)

◎ 肉体を超えた非局在意識には、空間の隔たりというものがなく、すべてのものが一体になるということは、主体と客体との間のバリアがないということであり、対象なき純粹の覚醒ということである。これは量子の共存状態である。客体がないので主体がすべてになる。私は万物と一体になった宇宙意識になり、対象と一体になり、相手の心と一つになる。他者の心が読め、テレパシーで意志が通じ合う。この事は人生再検査で明白になる。光の世界では個は存続し分節できるが、全体から分離できない仕方で一体になっている。(不可分の全体) 肉体意識は主体と客体を分離し、自分と他者を分離する。科学もこの観測するものと観測されるものの分離を超えることは出来ない。この事は量子物理の観測問題で顕在化される。量子の波動関数では、時間と空間の隔たりはなく、全てが共存しているので、観測されるものと観測装置と観測者は一体で分離することは出来ない。すべてはバリアのない一体性の状態になっている。(禪の十牛図の八図では空の円が描かれているだけで、何も描かれてはいない。) 典型的な例を引用しよう。

「光の世界には主体と客体の分離はなかった。」(111)

「光の世界には限界とか境界はなく、個人も外部もなかった。」(112)

「対象の一部になることなくしては、又結合することなくしては、ここでは何も見ることも聞くこともできない。あるものを見るということ自体が、ここでは存在しない分離を意味している。すべてのものは区別されているが、ペルシャの絨毯のデザインのように、すべてのものはすべてのものの部分になっている。見ることと聞くこととは、ここでは分離していない。光の世界の存在の視覚的美しさを、私は聞くことができた。光の存在の歌を見ることができた。」(113) この例では光の世界はすべてが分離できない仕方全体として一つになっていると言われている。肉体の五感自体対象との分離を意味しているので、光の世界には見るとか聞くとかいうことは存在しない。また肉体の感覚器官自体五つに分離しているが、非局在意識には光の存在全体が一つの知覚センターになっているため、一つの共通感覚になっている。(光の存在全体で感じ気付く。)

「私はバラの命を体験してみたいと思いました。バラの中に入り込んで、その霊をじかに感じてみたいと思ったのです。そう思った瞬間バラの内側が見えてきました。まるで自分がバラの中に入って、バラの一部になってしまったみたいです。私は花になってしまったのです。バラと私は一つになってしまいました。自分がどんなものとも一つになれるという体験は、生涯忘れえない本当に素晴らしい体験になりました。」(114) ここでは対象と一つになりたいと私が思えば一体になれたと言われている。(思念形態) 光の世界には主体と客体のバリアがないので、私はすべての対象と一つになれる。(万物一体) 私は万物である。不可分の全体の世界である。対象と一つになれば、対象が360度一度に分かるであろう。

「花は私の一部になり、花の魂は私と溶け合った。花は私が以前行ったことと、今行っているすべてを体験した。花は実際に私を意識し、そのデリケートなスピリットと花自身の存在と命を私と交換した。花は私の感情・思考・アイデンティティに影響した。花は私であり、私は花であった。この一体から生まれる喜びは、地上では味わったことのないほど浸透し、心地よく完全なものだった。その日万物は一つになった。」(115) ここでは私は対象と一つになり、その存在と命と意識と感情と思考とアイデンティティを共有し合ったと言われている。統合的全体意識(ソウルファミリー)は、互いの人生体験を共有し合うと言われている点との関連で注目に値する。

「木と植物と草は、私のことを知っていたので、コミュニケーションできた。私は幸せだった。人間のように考えるのではないが、木・草・植物は人間とは違った知性の形と感情を持っているように見えた。木・草・植物の生命の形から発する私への愛を感じた。」(116) この例は光の世界ではすべてのものが愛と感情と知性を備えているので、互いにコミュニケーションできると言っている。

「天の光に触れるとエーテルの音楽を聴くのみでなく、音楽の一部になった。音楽のなかには命があった。音楽は私を通して流れ、私は音楽を通して流れた。地上の人間以上に音

楽の中でエクスタシーになった。」(117)

「門に近づくにつれ、私は歌声を聞くのではなく、コーラスの一部になった。」(118)

「肉体に戻ると、私の意識は空間によって制約された。」(119)

「人間の身体の細胞は、身体を意識していない。人間の自己意識は絶対者を認識していない。人間は認知的二元性に束縛されているので、人間の意識は二元的だが、肉体を超えた純粋覚醒には時間がなく、肉体のような感覚器官や言葉といった媒介はなく直接的である。」(120)

肉体意識は時間と空間の制約を受け、肉体の感覚器官による主体と客体の分離によって二元的であり、ここに科学の限界がある。(対象と観測する者との分離)しかし脳と肉体を超えた非局在意識には、時間と空間の隔たりはなく、主体と客体の分離もなく、私は万物と一体になる。光の世界は分離できない仕方全体として一体の世界であり、自分と他者が分離していない統合的全体意識の世界である。

「車の事故で脳を傷害して、二か月意識を失った。自分の名前とアイデンティティを失う。黄金のエネルギーが流れるのを感じる。体も目も思考もない。内部と外部の違いもない。」(121)

「癒しのエネルギーは私の内でも外でもない。(二元的ではない)内と外の分離はない。私は万物の源から由来した。癒しはその源から来る。その源は私と分離してない。」(122)  
似た例はヨガの瞑想にもみられる。

「魂は宇宙意識を感じなければならない。マインドが客体から客体へ動くとき、自分をその客体だと感じてしまう。実際には主体も客体もない。この分離感とは肉体と自我意識が原因で起こる。宇宙と一つになりなさい。マインドが考えている限り、それは瞑想ではなく、動きだ。すべてのものがあなたになる時、それがブラフマンの意識だ。事象と形象は幻想であり、何の实在もない。」(123)

⑤ 臨死体験者が同時に異なる場所に存在できたという例が見られる。量子の確率の波が同時に違った場所に至る所に遍在できることと一致している。代表的な例を挙げよう。

「私は宇宙の外にいと同時にバーの天井のレベルにもいた。同時に二つの場所にいるようだった。」(124)

「多くの場所に同時にいて、一度に多くのレベルの出来事と会話を経験した。」(125)

「同時に複数の場所に存在することができた。」(126)

「私は多くの異なる場所を同時に見た。」(127)

「自分の肉体の外へ私の位置が浮上して、ベッドの自分を見下ろすと同時に、ベッドの私は浮上している自分を見上げた。回復してから集中治療室に見に行くと、そこには鏡はなかった。肉体を浮上した私とその時見たのと同じ器械があった。」(128)

### ③ 「肉体を超えた意識の非局在性

脳と肉体を超えた意識と光の存在は非局在意識である。時間のバリアがないということは過去も未来もすべてが現在であるということであり、空間のバリアがないということは、宇宙のすべてのものが一体であるということである。私は万物であり、万物は私である。脳と肉体を超えた意識は宇宙全体を包むまでに拡張する。(宇宙意識) 非局在意識は全宇宙に遍在している。光の世界にもある意味では空間と時間はあるが、それはバリアのない空間であり、全てが現在であるような時間である。

「通常の意味での時間はなかった。空間も通常の意味ではなかった。しかも行くべき別の場所があった。過ぎ行く時間のスパンはなかった。それは空間なき空間であり、時間なき時間であった。」(129)

「距離は常に変化した。時々反復したり、瞬時に長くなったり、短くなったりした。私は1時間以上意識がなかったと思ったが、この地上の時計では5~10分間しか意識を失っていなかった。」(130)

「肉体を超えると、我々は覚醒してすべての時間と空間を横断する。肉体の五感はない。我々は純粹意識である。」(131)

「スピリットの世界には時間はなく場所もない。スピリットには特定の状態がある。距離というものはなく、スピリットは至る所に遍在している。」(132)

### ④ 光の世界には時間と空間の隔たりがない

典型的な例を引用しよう。

「光の世界には過去・現在・未来という時間の流れもない。例えるならばすべては現在である。時間は意識の中に認識としてだけ存在する。光の世界はゼロ次元である。ゼロ次元というのは、空間も時間もないという意味である。光の世界はこの世のすべての場所すべての時間に存在する。光の世界はこの世とつながり、この世界のすべてを包んでいる。過去・現在・未来はなく、全てが現在である。つまり過去・現在・未来は一つにつながったものである。例えるならばマンダラの絵のようなもの。過去・現在・未来は同時にすべてを認識することができる。」(133)

「私は同時に至る所にいた。すべてのものが同時に見えた。時間はなくすべてのものが同時に見えた。時間はなく空間の制約もない。360度同時に見えた。」(134)

ある大学の物理学の教授は、臨死体験をして次のように証言している。「肉体を超える意識にシフトしたとき、時間と空間に結び付いていない感覚になり、時間と空間の外に浮上した。時間と空間に従属しない特別な意識状態になった。我々の魂は時間と空間に従属していない。それは宇宙とは別のタイプのエネルギーから成立をしている。魂は別の次元に存在している。」(135)

「時間と空間の感覚はない。すべてはただ存在していた。判断基準としてあるのは現在の

み。地上での判断基準からは完全に外にあった。」(136)

「時間と空間の源は時間と空間の経験に従わない。究極の体験は時間と空間を超える。過去・現在・未来という時間の流れはないので記憶は不要。常に現在だけがある。」(137)

「スピリットは時間と空間を超えている。言葉は時間と空間の境界内にとどまっている。時間と空間には意味がない。」(138)

「どの地点もすべての場所であり、逆もまた正しい。どの時点もすべての時間であり、逆もまた正しい。」(139)

「地上の意味での時間はなかった。定まった大きさもなかった。重力もなかった。」(140)

「数光年離れている星々の間に距離はなかった。時間もなかった。」(141)

「時間も空間もない異次元に似ていた。」(142)

「そこは oneness の世界で、時間も空間もなかった。時間と空間は幻想であり、人間の取り決めに過ぎない。」(143)

「時間と空間を示す物理的制約はなかった。」(144)

「地上のような空間はなく、時間は停止した。」(145)

「空間と時間には意味がない。両者は肉体的なものである。」(146)

「息をのむような速さでトンネルを通過した時、私は時間と空間の感覚を失った。時間の空間のない次元に、私は高められた意識状態にあった。時間と空間を私は超えたようだった。時間と空間はもはや存在しなかった。」(147) この例はトンネルを通過中に臨死体験者の自己のコアの振動数がアップするので、時間と空間のない次元に移行することを示している。

「私が光の世界に入った時、時間と空間は消えた。」(148)

「光の世界には時間と空間はなかった。」(149)

「光には時間と空間はなかった。」(150)

「光の世界には時間は存在しないし、空間の制約もない。」(151)

「物質宇宙の局在性はスピリットの世界には存在しない。」(152)

**K.Ring**によると、臨死体験者の 74.6%が時間と空間はないと答えている。(153)

禅からの似た例：「光の大洋へ溶け込む。誕生も死もなく原因も結果もない。物質界の時間と空間はすべて幻想である。古い肉体のエゴは死んで、スピリットの自己が誕生した。」(154)

⑥ すべての時間は今にありすべての空間はここにある。すべての時間と場所で起こることは、今、ここで同時に起こる。臨死体験では時間と空間の隔たりがなく、すべての出来事は分離できない仕方全体として一つになっているので、すべての時間とすべての場所で起こる出来事はすべて、今、ここで、一度に体験されることを、我々はすでに考察した。(155)宇宙の真の実在はどの場所でもどの瞬間でも出来事として現れることができる。光の非局在意識の世界は、時間と空間によって制約されていなので、形も名前も

ない。またそこには始めも終わりも誕生と死というものもない。(生死を超えている)脳と肉体を超えた意識である真の完全な自己には肉体のような誕生と死はない。光の宇宙意識界は物質宇宙の誕生前にも消滅後にも存在している。典型的な例を引用しよう。

「私が由来しかえる本源(天のホーム)は、時間の空間を超えている。天のホームは物質宇宙のビッグバン以前に存在し、物質宇宙の消滅後も存在する。」(156)

「肉体の五感の制約がなくなれば、私が直接かかわる時間と空間のすべての点が同時に分かる。」(157)

「光の世界では多くの視点と出来事を同時に体験した。多くの場所に同時に存在し、多くのレベルでの出来事を一度に体験できた。多くの体験をたどるのに問題はなかった。時間が拡張し、未来と過去へ同時に広がっている瞬間に似ていた。私は過去の出来事と未来の出来事を体験した。」(158)

「私は万物であったと同時に、私は無であった。私は至る所に遍在すると同時に、どこにも存在しなかった。私はいつでも存在すると同時に、どの時間にも存在しなかった。私の知性はあらゆる場所と過去・現在・未来のすべての時間に拡張した。」(159)

「完全性はここで今存在している。ここと今は、いつでもどこでもでもあり、至る所でいつでもでもある。」(160)

「宇宙は同じ織物から織られたすべての一つの大きいなる対象である。時間と空間は我々を物質界に閉じ込める幻想である。すべては同時に現在存在している。」(161)

「脳と肉体を超えた非局的リアリティでは、時間と空間はない。同じ時間に同じ場所で、すべての事が同時に起こる。すべての人はすべての事に結合している。」(162)

「地球上の生命はランダムではない。人間には理解できないスケールのプランがある。メビウスの帯のようなねじ曲がり、すべての表面を含む球体を見た。私の見たのは個体の丸い球体で、メビウスの帯の個体で、数学上のもので、人間の3次元のマインドではイメージできない。そこではすべての時間は今であり、すべての空間はここであるといわれた。」(163)

「すべての出来事は今ここで起こる。(量子)洞察は直接の完全な無時間の契機へのステップ。相対的な物質のリアリティである時間の流れを目撃するのに対して。自己は解消できない仕方で、物質のリアリティと結合してあるので、人間は純粹の覚醒の内に留まることは出来ない。不二一元論者にとっては霊も魂もない。洞察には主体と客体もなく、始めと終わりもないので、不二一元論者にとっては霊も魂もない。死における私の相対的不在は、私の絶対的覚醒の現存である。」(164)

「ある種のヴァーチャルゲームのように、カオスと秩序がある。すべては同じものから造りあげられている一つの織物である。時間と空間はない。始めと終わりはない。無もない。どの経験でも時間と空間は相対的で、宇宙全体では意味がない。映画でヴァーチャルな宇宙を見ているようだ。それはさまざまな次元のホログラム、さまざまなフィルムのシーケンス、見かけ上のリアリティなので、前にも後にも自由自在に行ける。」(165)

光の非局在意識界には、時間と空間のバリアはない。(無境界)

「光ではすべての境界が消える。」(166) すべての出来事が、今、ここで起こり体験されると言うことは、臨死体験者個人のレベルで、人生再検査という形で具体化している。人生再検査では、時間と空間の隔たりはすべてなくなり、すべての出来事が分離できない仕方で全体として一つになっている。(167)

「光の世界には物質界のバリアがない。」(168)

非局在意識は時間と空間を超えているので、肉体には分からないが、どこにでも存在すると同時にどこにも存在しない。いつでも存在すると同時にどの時にも存在しない。

◎ 非局在意識は時間と空間のバリアがなく、すべてのものが分離できない仕方で全体として一体になっているので、欲すれば宇宙のどの時間もどの場所もいつでも今ここで体験できる。これはホログラムのような思念形態ということであって、実際には空間を移動する訳ではないので、瞬間移動(テレポーテーション)というところではない。見たいと思う対象がどんなに遠くても見える遠隔透視も思念形態であって、物体を素通りすると言っても空間を移動する訳ではないので、遠隔透視と同じである。量子の非局在性と量子ジャンプでも時間はなく、空間の移動はない。典型的な例を引用しよう。

「肉体を超える意識にシフトした時、自由を感じた。行きたいと思うところにはどこにでも即時に行けた。」(169)

「私の体は物理的に移動しないで、即時に場所が変わったし、光の存在と死者は、体を動かすことなく、場所を移動した。」(170)

「スピリットの光では瞬時に伝わる。(テレパシー) 光は全宇宙に遍在。光の意識には時間と空間の制約がない。光の意識は非局在意識である。光の意識は同時にここにもあそこにも存在する。」(171)

臨死体験ではシーンが瞬時に変わるが、それは時間と空間のバリアがないためである。あるシーンから別のシーンへ量子ジャンプするのである。時間と空間のバリアを量子ジャンプするのである。それぞれのシーンには分節(区別)がある。これは人生再検査でも同じである。

◎ 臨死体験は時間と空間の外にある。

臨死体験は脳と肉体を超えた意識が体験する世界なので、時間と空間の外にある。今の瞬間しかない。量子にも今の瞬間しかない。相対性理論にはこの今の瞬間がない。「自分がいる場所以外の所へ行きたいという願いはなくなった。死後のことよりも、今、この瞬間の素晴らしさに、すべての注意を向けている。」(172)「臨死体験をした時、時空連続体の感覚はなかった。」(173) 光速は4次元時空連続体のバリアである。完全な光の意識は、肉体の生死・愛憎・幸不幸・善悪・正誤といった二元性を超えている。「至高体

験（クオリア）は、この物質界の現実よりももっとリアルで、時空の外にある。」(174) 「魂は思考と同様タッチできない。その空間上の位置を定めることは出来ない。他人の思考に人はアクセスできない。魂は思考と同様4次元時空の外にある。」(175) 「思考には物質のような形・大きさ・運動・方向がない。」(176) 光の完全な意識・いのち・知覚・自己・慈愛・安らぎ（ホーム）・喜び・美などから、物質界の不完全な意識・いのち・知覚・自己・慈愛・安らぎ（ホーム）・喜び・美などが由来し、後者は前者の投映（写し）に過ぎない。(177) 「意識はスピリットの世界から由来しているので、時間と空間の局在性がなく物質でもない。」(178) 臨死体験は物質界の4次元時空連続体の外にあるので、物質から作られた科学測定装置で捕えることはできない。意識そのものを科学装置で測定できないのと同じことである。「光の世界は論理を超え、我々のリアリティ感覚を破るものである。」(179) 臨死体験は脳と肉体を超えているので、我々の日常感覚では捕えることができない。脳と肉体感覚は、我々が無事に地球の表面を生きるために長い進化を経て培われてきたものであり、量子の世界には通用しない。

#### ㊦ いつ時間と空間はなくなるのか？

脳と肉体を超える意識にシフトしたのちに、時間と空間がなくなるのは確かである。光の世界には時間と空間はないのも確かである。脳と肉体お越える意識にシフトした直後に会いたい人や行きたい所に瞬時にアクセスしている例から見ると、時間と空間をすでに超えているようにもみえる。しかしこれは思念形態による遠隔透視と考えられる。自己意識のコアが振動数とスピードをアップして、猛スピードでトンネルと宇宙空間を飛行し光速に達すると、時間と空間はなくなる。（光には時間の空間がない）これを支持する事例がある。「私が息をのむような速さで、トンネルを通過した時、時間と空間の感覚を失った。時間と空間のない次元に、私は高められた意識状態にあった。時間と空間を私は超えたようだった。時間と空間はもはや存在しなかった。」(180) 「数光年離れている星々の間に距離がなく、時間もなかった。」(181) この見解が正しいとすると、脳と肉体から離脱した直後はまだ自己意識のコアの振動数が低いので、時間と空間感覚がまだ自己意識のコアに残っているものと思われる。行きたいところに行くのに空間移動をしている事例がある。

#### ㊧ 量子の非局在性

我々はすでに量子の局在性について考察した。(182)非局在性というのは時間と空間の隔たりにないということであり、分離できないということである。M.Kafatos と R.Nadeau は、ペアの量子のスピンの実験に基づく空間上の非局在性と、A.J.Wheeler の遅延選択実



験に基づく時間上の非局在性を統合した時空の非局在性（分離できないこと）が宇宙の本質であるとしている。(183)

量子消去実験では、実験装置の最後の段階を変えると、光子は最後の段階に到達する前に、コースを変えて通過する。光子は最後の段階に到達していないの、装置の変化に光子が反応したのではない。この事は光子にとって時間は存在しないことを示している。光子は最後の段階から時間を過去にさかのぼってコースを変えるのである。(184) 臨死体験でも、時間を超えた状態なので、物質界の過去の出来事を変更できる事例が報告されている。「死んだ父が私に肉体に戻るように言う。時間は存在しない。この時点の前に、医師達は私の内臓器官の働きを検査し、その結果はすでに書かれていた。いかし物質を超えた世界では、検査の結果と記録は、私のする決断に依存しているかのようだった。もし死を選択すれば、検査の結果は内臓器官の機能停止を支持する。もし肉体に戻ることを選べば、検査の結果は私の内臓器官が再び機能し始めることを示す。私が戻らないことを決断したとすると、私の肉体は死んでゆき、医師達は私が内臓器官の機能停止のために死んだと、私の家族に説明するのが分かった。同じ時間に、父が”お前はこれ以上進むと、戻れなくなる”と言う。私の前に物理的でないバリアがあるのに私は気付いた。その境界は見えない仕切でエネルギーレベルの変化によってしるしづけられていた。それを超えると私の物質界との結びつきは、すべて完全に切れて しまうと分かった。末期のリンパ腫が原因で内臓器官が機能停止して私は死んだと、家族に説明される。私が死んだ時の家族の悲しみが分かった。」(185) 「現在の瞬間は、自分の現実を作るための唯一の時間である。臨死体験中は過去も未来も流動体のように感じた。この世に戻るか戻らないかによって、癌の検査結果を変えることができた。」(186) 物質界ではすでに死亡診断書が書かれていた。しかし臨死体験者が肉体に戻ることを選択すると、肉体の死は取り消され、肉体は末期癌から奇跡的に回復したと証明されている。過去の事実がまるでなかったかのように取り消されてしまうのである。この事例は今の瞬間のみが実在することと、今の瞬間から思念形態によって過去も未来も作り出されることを示している。量子は時間と空間の外にある。量子は物質ではなく光に属している。(187)

一度相互作用した粒子のスピンは、どれほど距離を話しても、時間なしにいかなり情報の伝達という媒介なしに、量子相関を示すことが実験で判明した。粒子 A のスピンは左回りなら、粒子 B のスピンは必ず右回りになる。ここで大切なのは手袋を遠くはなしても、片方が右の手袋なら、もう一つの手袋は左であるというのとは違って、粒子のスピンは粒子を遠くはなした後で決めるという点である。粒子 A のスピンを右回りと決めれば、時間なしに遠く離れた粒子 B のスピンは左回りと決まるのである。粒子間には情報の伝達はなく、因果関係もないので、量子の非局在性は特殊相対性理論と矛盾しない。ここで重要な点は、ペアの粒子のスピンは右回りと左回りに分割されるのは、時空内で測定した結果であって、本来のスピンは右回りにも左回りにも決まっていないということである。ペアの粒子が一つの粒子システムとして、相互に結合して分離できない一つの全体性として一体になって

いる時には、スピンは右回りにも左回りにも全く決まっていない。右回りと左回りのスピンは分離できない仕方で一つの全体として共存状態にある。(188) しかし測定すると時空内でスピンの右回りと左回りに分割する潜在的可能性を備えている。(189) 測定すると時空内で右回りと左回りに分割されるが、本来は全体として一体性を保持されたままなのである。言い換えれば量子システムの本来の状態ベクトルは、分離できない仕方で全体として一体性を保持しているのである。宇宙の本質は時間と空間のバリア、4次元時空連続体の外にある。この事は宇宙全体はすべてに要素が互いに結合し合って、分離できない一つの量子システムとして全体をなしていることを示しており、これが宇宙の本質である。(190)これは臨死体験における、脳と肉体を超える意識が時間と空間の隔たりのない非局在状態にあることと共通している。量子の状態ベクトルでは、多くの潜在的可能性を実現する不可視の確率の波として、すべての要素が完全に相互に結合して、分離できない仕方、一つの全体として一体になっている。電子は確立の波として原子内の真空のいたるところに、時間と空間のバリアを超えて遍在している。これは光の存在や死者が時間と空間のバリアを超えて、いかなる時にも、又いかなるところにも存在できるのと同じである。すべての要素は共存し、潜在的可能性の波として干渉状態（コヒーレンス）であり、測定すると粒子同士が相互作用して、時空内で干渉性を消失（デコヒーレンス）する。不可視の確率の波は宇宙全体に広がっている。(191) 臨死体験でも、非局在意識はすべての個がたいに結合し、分離できない仕方、一つの全体として一体になっていて、統合的全体意識を形成している。またコヒーレンス状態（すべての波が全体として一つになっている）であり、すべての個は共存している点で、量子システムと共通している。

プランク定数の特異点には、時間も空間もない。量子真空にはゼロ点エネルギーが揺らいでいて（振動）、ヴァーチャル粒子が生成と消滅を猛スピードで繰り返している。そこにはミニブラックホールがある。この量子真空から発生した泡の一つが、インフレーションとビッグバンを起こして、我々の物質宇宙になった。(192) 一つの分離できない全体である量子システムから物質宇宙と時間と空間が生成された。宇宙の本質である量子システムでは、エネルギーの振動と関係のネットワークのみが存在し、すべてのものは互いに結合していて、分離できない仕方、一つの全体として一体になっているので、主体と客体は分離できない。量子システムから見れば、観測される対象と観測装置と観測者は不可分の全体であり分離できない。すべての分離はわれわれの主体と客体の分離に起因する。我々の意識は、不可分の全体として一体になっている量子システムでは、不可欠の要素を担っている。観測者の意識を無視しては、万物の理論は完成しない。(193) 物理学では観測者が完全に除外されていることを、E.シュレーディンガーが指摘し、S.マリンがこの問題を追及している。(194)

すべてのものは脳と肉体感覚によって知覚される。数学も物理法則も脳と意識を通して知覚される。我々には脳と肉体を通して知覚されることしか分からない。(J.A.Wheeler) 脳と肉体は物質でできているので時間と空間によって制約されている。物質界も時間と空

間によって制約されている。従って脳と肉体を超えない限り、われわれは時間と空間の制約を超えた非局在の世界、すべてのものが分離できない仕方で、一つの全体として一体になっている量子システムも、臨死体験の世界も分からない。

## ⑤ 光の非局在性

- ① 特殊相対性理論によれば、自分に対して動いている物体は進行方向にちぢみ、その物体に付属している時計はゆっくりと進む。光速になると物体の長さ（距離・空間の隔たり）はゼロになり、時計の遅れは無限大になり、物体はぺっちゃんこになり、時間は止まる。物体そのものがちぢむのではなく、時計自体が止まるのではない。空間がちぢみ、時間が遅れる。我々自身が動くとき周囲の空間が進行方向にちぢみ、周囲の時間が遅くなる。」(195) 「光は常に光速である。光にとって自分の周囲の空間は進行方向にぺっちゃんこになっている。周囲の時間は止まっている。光にとって周囲の空間も時間も消滅。光にとって周囲の空間が進行方向にぺっちゃんこになっているから、光には横波しか存在しない。光にとって周囲の空間は進行方向にぺっちゃんこになっているから、光は進行方向に直角な平面でしか振動できない。光は進行方向には振動できない。光にとって空間は進行方向には消滅し、時間は止まり、永遠になる。」(196) 光子は測定するまでは時間が定まっていないことは、遅延選択実験と量子消去実験によって実証されている。光には過去も未来もなく常に現在しかない。光にとってすべては同時に起こっている。「光自体は時間と空間の隔たりがないので、宇宙のいたるところに同時に存在する。光は宇宙に遍在している。」(197) 「光は静止質量がないので光速で運動。光には空間の隔たりがない。時間は永遠に伸びるので、時間の隔たりもなく、光は自分の軌道に沿ったあらゆる場所に、常に存在している。」(198) 「光速を進めば、宇宙の端から端まで時間なしで行ける。光線の両端の間には、時間もなく、距離もない。従って即時にコンタクトできる。光は位置と場所を決められないもの。光はただ存在するだけである。光には伝達というものはない。」(199) 「ローレンツ変換によると、光速で運動する対象では、時間は静止している。そして光子から見れば、すべてのものが光速で飛び去っていく。このような極限の条件下では、ローレンツ収縮によってすべての対象間の距離がゼロになるので、電磁波にとって時間が存在しない。言い換えれば電磁波は宇宙のいたるところに存在しているか、宇宙のすべてのものに接触しているかのどちらかである。光子の立場から考えれば、太陽から地球まで、あるいは全宇宙を通過するのに、全く時間がかからない。このような空間的距離は、光子にとって存在していないからだ。」(200) 光は時間と空間の制約がないので、全宇宙に遍在している。「最も暗い真空にも1立方メートルごとに不可視の400百万以上の光子がある。光は遍在しているので、光から逃れることは出来ない。光はすべてのものに存在し、原子内の電磁作用を起こしている。」(201)

② 光自体は時間と空間の外にあるが、物質界の人間が物質の計測器で光を測定すると、光速や光年として測定される。「光には時間はないが、4次元時空連続体にいる人間には、光が宇宙に同時に遍在しているようには見えない。こうして光速になる。時空の外にある光自体には時間はなく、同時に遍在している。光は至る所にどこにでも遍在している。光には過去・現在・未来の区別はなく、すべては現在である。全世界に遍在しているので宇宙全体のことを知っている。人間が金魚鉢の外から金魚をのぞいても、金魚鉢の中の金魚には、金魚鉢の中から人間がのぞいているとしか見えない。同じように人間には4次元時空連続体によって制約されているので、太陽光しか見えない。」(212)人間は脳と肉体の感覚によってしか光が見えなので、光速と光年としか光を知覚できない。光には時間がないので、全てが永遠である。永遠というのは時間がないことであり、時間が限りなく続くこと(永続)ではない。光には始めも終わりもない。誕生・成長・老化・死というものではなく、年齢もない。生死を超えている。臨死体験の光にも同じことが言える。光は過去も未来もすべて現在体験できる。また即時に相手にコミュニケーションできる。光は時間の空間の制約がないので、宇宙のどこにでも即時に体験できる。移動はしないので、瞬間移動ではない。臨死体験でも光の存在は、世界のどこでも即時に体験できる。時間と空間の隔たりがないので、すべての事象が今ここで起こる。

光子は量子なので、量子と同じようにすべての光子は完全な仕方で結合していて、分離できない仕方で全体として一つになっている。また光は宇宙全体に遍在し、過去・現在・未来というバリアを超えているので、過去・現在・未来の全宇宙に関する全情報を備えている。臨死体験の光も全宇宙のことを知っている。(全知)(203)「光は時間なしに全宇宙にどこにでも行ける。同時に宇宙のどこにでも存在している。(遍在)光自体はどこにも移動しない。人間の知覚にとってのみ、時間と空間の枠組みにはめられ、光は時空を移動するよう見える。」(204)脳と肉体を超えた意識も、意図すれば宇宙のどこにでも、又いかなる時間にも即座にアクセスできる。(瞬間移動ではない。)事例を引用しよう。「光自体には出発点と到達点の間の距離はなく、移動もない。光は時間なしに、どこにでも行ける。(遍在)光速というのは意味がない。光自体にはスピードという参照枠はなく、光速は絶対尺度である。光には時間も空間もないが、物質界では時間と空間の隔たり(距離)として現出される。光速というのは、物質界での時間と距離の現出の配分のことで、1秒間に約30万kmである。」(205)「地球上の時計で計測すると、100万光年の星から光子は100万年かかって地球に届く。光子にとっては何ら時間はかかっていない。宇宙背景放射の光子は、地球上の時計では、ビックバン以来137億年の旅をしているが、光子自体にとってはビックバンも我々の現在も同じ時間である。光子自体には時間はない。宇宙にあるすべてのものは、全事象を同時に見る電磁波放射の網で関連付けられている。」(206)

③ 肉体意識は感覚器官と脳を通して知覚するので、時間と空間の隔たりの中で時空上分離した個我として生きている。脳と肉体を超えた非局在意識は、すべての知覚を映し出

すスクリーンのようなもので、純粹意識はスクリーンを照射する光である。内なる光である非局在意識には、時間と空間のバリアはなく、客体と主体の分離もない。電磁波のスペクトルは全宇宙に遍在している。その周波数の1部のみしか人間の目で捕えることができず（可視光線）、他の大半の電磁波は人間には見えない。電磁波はすべて光子からできていて、時間と空間の隔たりはない。宇宙意識の光は宇宙全体に遍在しているが、人間の肉眼には見えない。天の光が人間の意識のコアを照らすと、人間は天の光を体験できる。我々の自己意識のコアは、振動数をアップして脳と肉体を超えて、真空のトンネルを通過しながらさらに振動数をアップして、光に到達し、宇宙意識になって全宇宙と一体になり、不可分の全体意識になってすべてが完全な状態になる。

#### 註

- 1)時間と空間の分離を超える意識、人間文化研究、12巻、2003,7~8
- 2)A.ムアジャーニ、喜びから人生を生きる！ナチュラルスピリット、2013,216~217
- 3)[www.nderf.org/holly-v-nde.htm](http://www.nderf.org/holly-v-nde.htm)
- 4)[www.nderf.org/andrew-c's-nde.htm](http://www.nderf.org/andrew-c's-nde.htm)
- 5)[www.nderf.org/randy-s-nde.htm](http://www.nderf.org/randy-s-nde.htm)
- 6)[www.nderf.org/miguel's-nde.htm](http://www.nderf.org/miguel's-nde.htm)
- 7)W.R.Miller,I 'm an NDE...,Are you an NDE?,Xulonpress,2003,25
- 8)鈴木秀子、死に行くものからの言葉、文芸春秋、1997,12
- 9)M.セイボム、あの世からの帰還、日本教文社、1986,23~24
- 10)W.R.Miller,I 'm an NDE,23
- 11)K.Ring,Lessons fromtheLight,InsightBook,1998,298[www.nderf.org/peter-r's-nde.htm](http://www.nderf.org/peter-r's-nde.htm)
- 12)片桐すみ子編訳、輪廻体験、人文書院、1991,82
- 13)[www.nderf.org/Japanese/lisa's-nde.Japanese.htm](http://www.nderf.org/Japanese/lisa's-nde.Japanese.htm)
- 14)[www.nderf.org/jerome's-nde.htm](http://www.nderf.org/jerome's-nde.htm)
- 15)[www.nderf.org/ray-k's-nde.htm](http://www.nderf.org/ray-k's-nde.htm)
- 16)[www.nderf.org/julie-n's-nde.htm](http://www.nderf.org/julie-n's-nde.htm)
- 17)[www.nderf.org/james-w-nde.htm](http://www.nderf.org/james-w-nde.htm)
- 18)[www.nderf.org/tim-nde-4927.htm](http://www.nderf.org/tim-nde-4927.htm)
- 19)R.Bennet,To Heaven and Back,Zondervan [www.nderf.org/mike-i-jr-nde.htm](http://www.nderf.org/mike-i-jr-nde.htm)
- 20)www.Publishing House,1999,60
- 21)M.Robinson,Falling to Heaven, Arrow Publication,2003,96~97
- 22)[www.near-death.com/nightingale.html](http://www.near-death.com/nightingale.html)
- 23)[www.nderf.org/marta-a-nde.htm](http://www.nderf.org/marta-a-nde.htm)
- 24)J.Michels,Berichte von der Jenseitsschwelle,Goldmann Arkana,2008,177~178

- 25) [www.oberf.org/peter-l's-ndelike.htm](http://www.oberf.org/peter-l's-ndelike.htm)
- 26) [www.origenes.de/nte/katzman/katzman.htm](http://www.origenes.de/nte/katzman/katzman.htm)
- 27) A. Suleman, A Passage to Eternity, Amethyst Publishing, 2004, 31
- 28) [www.nderf.org/mark-j's-nde.htm](http://www.nderf.org/mark-j's-nde.htm)
- 29) [www.nderf.org/mathilde-m's-nde.htm](http://www.nderf.org/mathilde-m's-nde.htm)
- 30) [www.nderf.org/andrew-p's-nde.htm](http://www.nderf.org/andrew-p's-nde.htm)
- 31) [www.nderf.org/joyce-h's-nde.htm](http://www.nderf.org/joyce-h's-nde.htm)
- 32) [www.nderf.org/tawnie-m's-nde.htm](http://www.nderf.org/tawnie-m's-nde.htm)
- 33) [www.nderf.org/anita-m's-nde.htm](http://www.nderf.org/anita-m's-nde.htm)
- 34) [www.nderf.org/mark-h-possible-nde.htm](http://www.nderf.org/mark-h-possible-nde.htm)
- 35) [www.nderf.org/sue-v's-nde-like-ste.htm](http://www.nderf.org/sue-v's-nde-like-ste.htm)
- 36) [www.nderf.org/kathy-w-possible-nde.nde.htm](http://www.nderf.org/kathy-w-possible-nde.nde.htm)
- 37) [www.nderf.org/denise-b's-nde.htm](http://www.nderf.org/denise-b's-nde.htm)
- 38) [www.nderf.org/NDERF/NDE Experiences/robyn-nde.htm](http://www.nderf.org/NDERF/NDE Experiences/robyn-nde.htm)
- 39) [www.nderf.org/NDERF/NDE Experiences/jeffrey-o-nde.htm](http://www.nderf.org/NDERF/NDE Experiences/jeffrey-o-nde.htm)
- 40) [www.nderf.org/casper-nde.htm](http://www.nderf.org/casper-nde.htm)
- 41) [www.nderf.org/james-w-nde.htm](http://www.nderf.org/james-w-nde.htm)
- 42) [www.nderf.org/vivat-nde.htm](http://www.nderf.org/vivat-nde.htm)
- 43) [www.nderf.org/bobbi-d-nde.htm](http://www.nderf.org/bobbi-d-nde.htm)
- 44) T. Cohen, The Day Idierd, John Blake Publishing, 2006, 51~52
- 45) [www.nderf.org/nancy-p's-nde.htm](http://www.nderf.org/nancy-p's-nde.htm)
- 46) [www.nderf.org/walley-t's-nde.htm](http://www.nderf.org/walley-t's-nde.htm)
- 47) [www.nderf.org/jean-r-nde6166.htm](http://www.nderf.org/jean-r-nde6166.htm)
- 48) [www.nderf.org/NDERF/NDE Experiences/gustave-p-ste.htm](http://www.nderf.org/NDERF/NDE Experiences/gustave-p-ste.htm)
- 49) [www.nderf.org/Bill-v's-nde.htm](http://www.nderf.org/Bill-v's-nde.htm)
- 50) [www.nderf.org/denise-b's-nde.htm](http://www.nderf.org/denise-b's-nde.htm)
- 51) K. Ring, Lessons, 45
- 52) S. Menet, There Is No Death, Mountain Top Publishing, 2002, 31
- 53) Evidence of the Aftelife, Harper Collins, 2010, 13
- 54) [www.well.com/user/bobby/mystical/beyound-andback.html](http://www.well.com/user/bobby/mystical/beyound-andback.html)
- 55) C. Zaleski, Otherworld Journeys, Oxford University Press, 1987, 125
- 56) Mellen-Thomas Benedict, in L. W. Bailey & J. Yates, The Near Death Experience, Routledge, 1995, 46
- 57) [www.nderf.org/khadija-h's-nde.htm](http://www.nderf.org/khadija-h's-nde.htm)
- 58) A. E. Yensen, I Saw Heaven, 1955, 15
- 59) D. Piper, 90 Minutes in Heaven, Revell, 2004, 26~27

- 60) [www.nderf.org/bryan-s-s-nde.htm](http://www.nderf.org/bryan-s-s-nde.htm)
- 61) A.Moorjani, Dying to Be Me, Hay House, 2012, 66~67
- 62) J.Michel, Zu Besuch im Himmel, St.Benne Verlags, 2011, 209
- 63) 同上書、224
- 64) [www.oberf.org/peter-r-s-ndelike.htm](http://www.oberf.org/peter-r-s-ndelike.htm)
- 65) [www.nderf.org/susan-a-s-nde.htm](http://www.nderf.org/susan-a-s-nde.htm)
- 66) S.S.Farr, What Tom Sawyer Learned From Dying, Hampton Roads Publishing Company, 1993, 27~28
- 67) 飯田史彦、ツインソウル、PHP研究所、2006, 64~67
- 68) [www.nderf.org/linda-k-nde.htm](http://www.nderf.org/linda-k-nde.htm)
- 69) [www.nderf.org/Bill-v-s-NDE.htm](http://www.nderf.org/Bill-v-s-NDE.htm)
- 70) [www.nderf.org/stay-s-nde.htm](http://www.nderf.org/stay-s-nde.htm)
- 71) [www.nderf.org/sam-p-s-nde.htm](http://www.nderf.org/sam-p-s-nde.htm)
- 72) [www.nderf.org/casper-nde.htm](http://www.nderf.org/casper-nde.htm)
- 73) N.Danison, Backwards, AP Lee 6 Co., 2007, 81
- 74) 影と闇のない光：臨死体験における光の非局在性について
- 75) [www.nderf.org/lisa-s-nde.htm](http://www.nderf.org/lisa-s-nde.htm)
- 76) J.Wilhelm, I knew this was heaven, website
- 77) [www.nderf.org/sybid-s-nde.htm](http://www.nderf.org/sybid-s-nde.htm)
- 78) R. Wallace, The Burning Within, Gold Leaf Press, 1994, 101~102
- 79) J.Wilhelm, I knew
- 80) [www.nderf.org/michael-d-s-ndes.htm](http://www.nderf.org/michael-d-s-ndes.htm)
- 81) 私論「完全情報・完全視覚・完全聴覚・完全理解・完全コミュニケーション」を見よ。
- 82) A.Berglesow, Ich war im Himmel und bin zurückgekehrt, website
- 83) スワーム・ヴィラージュ・シュワラ、真実への道、出帆新社、2007, 224
- 84) [www.nderf.org/stephen-c-nde.htm](http://www.nderf.org/stephen-c-nde.htm)
- 85) E.Alexander, Proof of Heaven, Piatkus, 2012, 156
- 86) J.Michels, Besuch, 30
- 87) Aムアジャーニ、喜び、250
- 88) E.Alexander, Proof, 151
- 89) J.LeSage(ed), Truly Alive, 2010, 63
- 90) [www.nderf.org/gail-c-nde.htm](http://www.nderf.org/gail-c-nde.htm)
- 91) K.Ring, Lessons 298
- 92) [www.nderf.org/jean-r-nde6166.htm](http://www.nderf.org/jean-r-nde6166.htm)
- 93) Triton.net/potentialspas/kessays/neardeath.htm

- 94) [www.nderf.org/nanci-d-nde.htm](http://www.nderf.org/nanci-d-nde.htm)
- 95) [www.near-death.com/brodsky.htm](http://www.near-death.com/brodsky.htm)
- 96) C.W.Parrish-Harra, Messengers of Hope, New Age Press, 1983, 43
- 97) J.Antonette, Whispers of the Soul, 1998, 31
- 98) [www.nderf.org/burke's-nde.htm](http://www.nderf.org/burke's-nde.htm)
- 99) [www.nderf.org/cheryl-n-nde.htm](http://www.nderf.org/cheryl-n-nde.htm)
- 100) [www.nderf.org/patricia-c-nde.htm](http://www.nderf.org/patricia-c-nde.htm)
- 101) [www.near-death.com/forum/nde/001/07.html](http://www.near-death.com/forum/nde/001/07.html)
- 102) L.E.Tooley, I Saw Heaven, Horizon Publishers & Distributer's, Inc, 1997, 85~92
- 103) [www.nderf.org/jean-r-nde6166.htm](http://www.nderf.org/jean-r-nde6166.htm)
- 104) S. ヴィラージュシューワラ、真実への道、223
- 105) 同上書、223
- 106) [www.nderf.org/nelson-b-nde.htm](http://www.nderf.org/nelson-b-nde.htm)
- 107) A.Berglesow, Ich war
- 108) [www.nderf.org/julio-m's-nde.htm](http://www.nderf.org/julio-m's-nde.htm)
- 109) [www.nderf.org/augustin's-nde-htm](http://www.nderf.org/augustin's-nde-htm)
- 110) [www.nderf.org/anita-m's-nde.htm](http://www.nderf.org/anita-m's-nde.htm)
- 111) [www.nderf.org/james-w-nde.htm](http://www.nderf.org/james-w-nde.htm)
- 112) [www.nderf.org/lisa's-nde-htm](http://www.nderf.org/lisa's-nde-htm)
- 113) E.Alexander, Proof, 45~46
- 114) B.イーディー、私が死んで体験したこと、同朋舎、1995, 123~124
- 115) R.Wallace, Burning, 103
- 116) S.L.Menet, No Death, 31
- 117) [www.nderf.org/mark-h-possible-nde.htm](http://www.nderf.org/mark-h-possible-nde.htm)
- 118) D.Piper, 90 Minuts, 36
- 119) [www.nderf.org/ludmira-nde.htm](http://www.nderf.org/ludmira-nde.htm)
- 120) [www.nderf.org/stephen-t's-nde.htm](http://www.nderf.org/stephen-t's-nde.htm)
- 121) [www.wisdamtalk.org/jm-ivwz.htm](http://www.wisdamtalk.org/jm-ivwz.htm)
- 122) A.Moorjani, Dying, 177
- 123) S. ヴィラージュシューワラ、真実への道、289
- 124) [www.seattleiands.org/stories/universe.htm](http://www.seattleiands.org/stories/universe.htm)
- 125) [www.nderf.org/richard-l's-nde.htm](http://www.nderf.org/richard-l's-nde.htm)
- 126) [www.nderf.org/viva-t-nde.htm](http://www.nderf.org/viva-t-nde.htm)
- 127) [www.nderf.org/virginia-d-nde.htm](http://www.nderf.org/virginia-d-nde.htm)
- 128) [www.nderf.org/tim-b-possible-nde.htm](http://www.nderf.org/tim-b-possible-nde.htm)
- 129) [www.nderf.org/lisa's-nde.htm](http://www.nderf.org/lisa's-nde.htm)



- 130)J.Long,Evidence,12
- 131)A.Moorjani,Dying,143
- 132)J.Michels,Berichte,98
- 133)高木善之、転生と地球、PHP 研究所、1 1997,110~111
- 134)[www.nderf.org/erwin-v-nde.htm](http://www.nderf.org/erwin-v-nde.htm)
- 135)[www.nderf.org/esteban-fr's-nde.htm](http://www.nderf.org/esteban-fr's-nde.htm).この物理学者は2分半以上心停止・呼吸停止し、脳から血流がなくなった10秒後に脳が機能停止した。
- 136)[www.nderf.org/carolina's-nde.htm](http://www.nderf.org/carolina's-nde.htm)
- 137)[www.nderf.org/james-w-nde.htm](http://www.nderf.org/james-w-nde.htm)
- 138)[www.nderf.org/patricia-c-nde.htm](http://www.nderf.org/patricia-c-nde.htm)
- 139)[www.nderf.org/mike-i-jr-nde.htm](http://www.nderf.org/mike-i-jr-nde.htm)
- 140)[www.nderf.org/christine-b-nde.htm](http://www.nderf.org/christine-b-nde.htm)
- 141)[www.nderf.org/beverly-b's-nde-like.htm](http://www.nderf.org/beverly-b's-nde-like.htm)
- 142)[www.nderf.org/augustyin's-nde.htm](http://www.nderf.org/augustyin's-nde.htm)
- 143)[www.nderf.org/anita-e's-nde-like.htm](http://www.nderf.org/anita-e's-nde-like.htm)
- 144)[www.nderf.org/maria-r's-nde.htm](http://www.nderf.org/maria-r's-nde.htm)
- 145)[www.nderf.org/sylvia-s-nde.htm](http://www.nderf.org/sylvia-s-nde.htm)
- 146)[www.nderf.org/sylvia-w's-nde.htm](http://www.nderf.org/sylvia-w's-nde.htm)
- 147)E.Winkler,Begegnung mit dem lebendigen Licht,Silberschnur,2001,40~41
- 148)[www.nerf.org/linda-s-probable-nde2903-htm](http://www.nerf.org/linda-s-probable-nde2903-htm)
- 149)[www.nderf.org/linda-s-probable-nde.htm](http://www.nderf.org/linda-s-probable-nde.htm)
- 150)[www.nderf.org/robert-c-nde.htm](http://www.nderf.org/robert-c-nde.htm)
- 151)B.VandenBush,If Morning Never Comes,The Old Hundred and OnePress,2003,106
- 152)E.Alexander,Proof,.156
- 153)Life at Death,Quill,1982,97
- 154)[www.near-death.com/forum/0174.html](http://www.near-death.com/forum/0174.html)
- 155)時間と空間の分離を超える意識、10~11
- 156)<http://celestial.kuriakon.com/nde/rudi-rudenski.htm>
- 157)A.ムアジャーニ、喜び、109
- 158)[www.nderf.org/richard-l's-nde.htm](http://www.nderf.org/richard-l's-nde.htm)
- 159)[www.mindspring.com/~scotter/nde/markh.html](http://www.mindspring.com/~scotter/nde/markh.html)
- 160)[www.nderf.org/mike-i-jr-nde.htm](http://www.nderf.org/mike-i-jr-nde.htm)
- 161)Lessons,298
- 162)M.Morse,www.newsun.com/morse.html

- 163)[www.nderf.org/jean's-nde.htm](http://www.nderf.org/jean's-nde.htm)
- 164)[www.nderf.org/stephen-t's-nde.htm](http://www.nderf.org/stephen-t's-nde.htm)
- 165)[www.nderf.org/julia-m's-nde.htm](http://www.nderf.org/julia-m's-nde.htm)
- 166)[www.nderf.org/linda-s-probable-nde.htm](http://www.nderf.org/linda-s-probable-nde.htm)
- 167)私論「不可分の全体のミニチュア版としての人生再検査」
- 168)[www.nderf.org/steve-b's-nde.htm](http://www.nderf.org/steve-b's-nde.htm)
- 169)T.Cohen,The Day,48
- 170)J.Papievis,Go Back and Be Happy,Monarch Books,2008,21
- 171)S.S.Farr,Tom Sawyer,28.51~52
- 172)A.ムアジャーニ、喜び、216
- 173)[www.nderf.org/jedraine-c's-nde.htm](http://www.nderf.org/jedraine-c's-nde.htm)
- 174)S.マリン、隠れたがる自然、白揚社、2001,303
- 175)P.Davis,God and The New Physic, J.M.Dent \$ SonsLtd,1983, 73
- 176)同上書、80
- 177)私論「完全情報。完全知覚・完全理解・完全コミュニケーション」
- 178)E.Alexander,Proof,156
- 179)[www.nderf.org/Beverly.B.NDElike2945.htm](http://www.nderf.org/Beverly.B.NDElike2945.htm)
- 180)E. Winkler,Begegnung,40~41
- 181)[www.nderf.org/beverly-b's-nde-like.htm](http://www.nderf.org/beverly-b's-nde-like.htm)
- 182)時間と空間の分離を超える意識、1~3
- 183)The Non-Local Universe,Oxford University,1999,188~189
- 184)T.L.Baumann,The Significance of Light in the Near death  
1Experience,JNDS23,2005,201
- 185)A.ムアジャーニ、喜び、119~121
- 186)同上書、268~269
- 187)Alice in Quantum Land:www.peterrussell.com/SCG/Alice.php
- 188)M.Kafatos & R.Nadeau,Non-Local,81;B.グリーン、宇宙を織成すもの、上、草思  
社、2009,200~211
- 189)A.D.アクゼル、量子の絡み合う宇宙、早川書房、2004,242
- 190)M.Kafatos & R.Nadeau,Non-Local,190;J.Gribbin,I Serch of Schrödinger's  
Cat,Bantam Books,1984,230
- 191)B.グリーン、織りなすもの、上、161~162
- 192)MKafatos & R.Nadeau,The Conscious Universe,.,Springer Verlag,1997,70.160
- 193)E.Alexander,Proof,151.154~155
- 194)S.マリン、自然、
- 195)竹内薫、よくわかる新時間論の基本としくみ、秀和システム、2006,91~92

- 196)竹内薫、時間論、92~93
- 197)J.Gribbin, Schrödinger's Kitten,Weidenfeld & Nicolson,1995,79
- 198)L.フォワード、SFはどこまで実現できるか、講談社、1989,238~239
- 199)R.Weber,Dialogues with Scientists and Sages, Routledge & Regan Paul,1987,44~47
- 200)J.グルビン、シュレーディンガーの子猫たち、シュプリンガー・フェアラー東京、1998,109~110
- 201)T.L.Baumann,The Akashic Light,A.R.E.Press,2006,7~9
- 202)T.L.Baumann,Nondenominational Quantum Spirituality,Create Space,2010,35~37
- 203)T.L.Baumann,Light,10
- 204)T.L.Baumann,Light,9~10
- 205)Alice
- 206)J.グリビン、シュレーディンガーの猫、下、地人書簡 1992,57